

CQ 6

- a. 用手的リンパドレナージ (MLD) は続発性リンパ浮腫の発症予防の一環として勧められるか？
- b. シンプルリンパドレナージ (SLD) は続発性リンパ浮腫の発症予防の一環として勧められるか？

推奨

- a. 用手的リンパドレナージ (MLD) が上肢リンパ浮腫の発症を予防するという質の高い根拠は示されておらず、予防的施行を行うことは勧められない。下肢リンパ浮腫患者に対するMLDの予防的施行の報告例は非常に少ないため、推奨度は評価できない。
上肢：グレードC2 下肢：推奨度評価なし
- b. 上肢・下肢ともにシンプルリンパドレナージ (SLD) のエビデンスは乏しく、推奨度は評価できない。
上肢：推奨度評価なし 下肢：推奨度評価なし

背景・目的

リンパ浮腫に対するリンパドレナージについては数多くの報告がなされている。リンパドレナージには用手的リンパドレナージ (manual lymphatic drainage ; MLD) とシンプルリンパドレナージ (simple lymphatic drainage ; SLD) がある。MLDは障害のあるリンパ経路の活動を増やし、リンパ管を迂回することによって停滞しているリンパ流を改善することができる。さらに、SLDはより簡便で患者および家族が自宅で適切に行える方法である。しかしながら、MLDの有効性や適切な回数・方法は確立されていないのが実状である。本CQではMLDとSLDのリンパ浮腫予防効果について検討した。

解説

上肢リンパ浮腫の予防について、Devoogdtらは腋窩リンパ節郭清を受けた乳癌患者337人のうち同意が得られた160人で検討を行った¹⁾。術後早期から30分間運動療法のみ(肩の運動、大胸筋のストレッチ、創部のマッサージ)を行う対照群と、30分間運動療法(肩の運動、大胸筋のストレッチ、創部のマッサージ)+週1~3回程度40項目のMLD治療を行う治療群に分けた[その際、BMI(25以上と25未満)と腋窩への放射線治療の有無を層別化因子とした]。その結果、術後12カ月でも対照群で19%、治療群で24%がリンパ浮腫を発症し、リンパ浮腫の発症率と発生期間に有意差はなかった。さらにQOL(mental healthとphysical health)にも差はなかった。

Zimmermannらは、乳癌手術を受ける67人をMLD施行群33人と対照群34人にランダム化割り付けし、手術前、術後2日目、7日目、14日目、3カ月目、6カ月目に健側と患側の浮腫を測定した²⁾。結果として術後6カ月目にMLDの介入によりリンパ浮腫の発症が有意に抑制された。ただし、上腕の浮腫の改善はなかった。

Torres Lacombaらは、2005～2007年に乳癌手術を受けた患者120人をMLDおよび肩関節運動を行う群と対照群に分け、リンパ浮腫の発症率を比較した³⁾。結果として術後1年時点で116人中18人がリンパ浮腫を発症し、その内訳は治療群で4人(7%)、対照群で14人(25%)と、治療群で有意に浮腫の発症を予防した。

このように上肢に対するMLDのリンパ浮腫予防効果は依然一定の見解が得られていない。したがって、予防としてのMLDおよびSLDの実施は推奨されない。

下肢リンパ浮腫のMLDおよびSLDの報告例は非常に少ない。研究論文(英文)は認めず、わが国における学会報告はあるものの、有効性については明らかでない。

なお、下肢浮腫を伴う心不全患者にMLDを行ったことで病状が悪化したという報告もあり、注意が必要である⁴⁾。

検索式・参考にした二次資料 -----

文献の検索は、下記1)2)の手続きで行った。

- 1) 2008年1月から2016年12月までに出版された英語の医学論文をPubMedで検索した。検索語は、「lymphedema AND (manual drainage OR MLD OR SLD)」とし、以下の基準に当てはまる論文を抽出した。

[適格基準]

- ①リンパ浮腫患者における診断・治療に関する原著論文、臨床試験、メタアナリシス、ランダム化比較試験
- ②Primary endpointがQOL、身体的苦痛、精神的苦痛、生活への影響、または生命予後のもの、あるいは実態調査

[除外基準]

- ①対象が小児に限定されているもの
 - ②Primary endpointが非臨床的指標のもの(サイトカイン、栄養学的指標、免疫学的指標など)
 - ③対象が終末期患者(例えば、生命予後が6カ月以下など)に限定されているもの
 - ④Full-length paperのある同一著者による短報
- 2) 二次資料として、Cochrane Library, UpToDate, Clinical Evidence, ガイドライン, レビュー論文を参照した。

以上の手順で、本CQに関係する文献4編を得た。

文 献 -----

- 1) Devoogdt N, Christiaens MR, Geraerts I, et al. Effect of manual lymph drainage in addition to guidelines and exercise therapy on arm lymphoedema related to breast cancer : randomized controlled trial. *BMJ*. 2011 ; 343 : d5326. [PMID : 21885537]
- 2) Zimmermann A, Wozniowski M, Szklarska A, et al. Efficacy of manual lymphatic drainage in preventing secondary lymphedema after breast cancer surgery. *Lymphology*. 2012 ; 45 (3) : 103-12. [PMID : 23342930]
- 3) Torres Lacomba M, Yuste Sánchez MJ, Zapico Goñi A, et al. Effectiveness of early physiotherapy to prevent lymphoedema after surgery for breast cancer : randomised, single blinded, clinical trial. *BMJ*. 2010 ; 340 : b5396. [PMID : 20068255]

- 4) Vaassen MM. Manual lymph drainage in a patient with congestive heart failure : a case study. *Ostomy Wound Manage.* 2015 ; 61 (10) : 38-45. [PMID : 26761960]